

山形市立病院済生館 新病院整備基本計画【概要版】

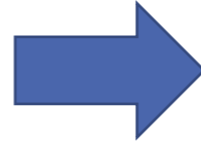
新病院整備基本計画の背景

＜令和3年度＞新病院整備基本構想 策定

狭隘化、老朽化など施設機能の抜本的改善のための建替えの必要性、新病院の基本方針や目指す役割・機能等を明確化

＜令和4年度＞現敷地内における建替えを決定

周辺病院との立地バランス、敷地内建替えの検証、「山形市中心市街地ランドデザイン」実現必要性等を考慮



＜令和5年度＞新病院整備基本計画 策定

基本構想における考え方を現敷地内において具現化するとともに、令和5年12月に策定された「七日町賑わい創出拠点整備基本方針」の対象エリアにおける一体的なまちづくり等を考慮した病院整備について、より具体的に検討、取りまとめ

新病院整備における基本的事項

新病院整備における基本方針

新病院は、山形市が運営する唯一の公立病院として、山形市が目指す「健康医療先進都市」の実現に向け、急性期医療及び高度急性期医療を主に担いながら、医療ニーズに応える。

新病院は、有事（新興感染症や災害等）においても適切な機能を担保できることを目指すとともに、将来的な人口減少や疾病構造の変化等を考慮し、適切な病床数においてより効率的な病院経営を実現する。

新病院が目指す機能・役割

① 医療機能の充実

- 救急外来の拡張・機能の充実
- 急性期医療機能の充実
（中央診療部門の拡張・機能の充実、集中治療機能の充実、脳卒中センターの機能の充実）
- 新興感染症対策の強化
- 災害拠点病院としての機能の充実 等

③ 質の高い職員の育成及び職場環境の充実

- 臨床研修指定病院としての機能の充実
- 教育・研究機能、職場環境の充実
- 高等看護学院の維持 等

④ D Xの推進

- I C T（情報通信技術）や I o T（モノのインターネット）の有効活用

② 療養環境の改善

- 快適な療養環境の提供 等

新病院の病床数及び病棟構成等、新病院の診療科構成

病床数：令和4年度を基準に再算定し、**450床程度**
病棟：高度急性期**H C U 1病棟**・急性期**9病棟**で構成
脳神経外科病棟に高度急性期対応病室を設置

病室：**4床室と1床室**による構成を基本
個室率：全体で**40%程度**
診療科：**現状維持**を想定（計31診療科）

部門別計画（計22部門のうち12部門を抜粋）

＜外来部門＞

待ち時間等の短縮化検討、分かりやすい案内表示
フリーアドレス方式検討、感染拡大時は専用外来設置

＜病棟部門＞

療養環境に配慮した整備、感染拡大時は専用病棟設置

＜救急部門＞

救急車両複数台のアプローチ可能な配置計画
十分なスペース及び諸室数の確保による機能強化

＜手術・中央材料部門＞

最新機器の積極導入、多様な術式の対応スペース確保

＜人工透析部門＞

井水の活用等による災害時にも透析継続可能な設備
感染対応病床の設置、感染患者の動線を別に確保

＜リハビリテーション部門＞

入院早期から質の高い急性期リハビリテーション実施

＜医事部門＞

自動精算機の導入等による受付・会計の混雑緩和検討

＜患者サポートセンター＞

患者の受診から入退院まで総合的なサポートの実施
地域医療機関等との連携強化、患者との信頼関係醸成

＜感染対策部門＞

感染対策に係る巡回や職員研修実施、地域連携強化

＜医局・臨床研修センター＞

専門知識向上、診療科間連携推進による医療の質向上
充実した臨床研修のための支援体制の強化

＜管理部門＞

スタッフ共通の整備等による職員の快適性の向上

＜高等看護学院＞

実習施設との連携による教育力向上、教育体制の充実
充実した I C T 設備、快適でゆとりある学習環境の整備

施設整備計画

整備方針

- **患者・来院者の視点**
ユニバーサルデザイン、プライバシーへの配慮 等
- **職員の視点**
ゾーニングの明確化、働きやすい職場環境 等
- **災害対応の視点**
耐震性の確保、災害拠点病院機能の維持 等
- **感染対応の視点**
感染エリアの明確な分離、専用病棟・外来の確保 等
- **将来を見据えた視点**
新たな機器導入や設備変更に対応可能な柔軟性・拡張性
- **経営の視点**
健全経営の維持、過度な設備の抑制 等
- **市立病院としての視点**
政策医療への対応、市の各種計画や施策への適合 等
- **まちづくりの視点**
旧大沼側の街区と一体的なまちづくり 等

土地利用計画

- ・工事中も診療継続。駐車場、学院棟、駐輪場を先行解体し新病院整備。先行解体する建物は代替機能を確保。
- ・メインエントランスは東側（旧大沼側）、一般車両は東西両側、救急車両は主に西側からのアプローチを想定。
- ・新病院完成後、既存病院を解体し、車路のほか地上に広場、地下に駐車場及び駐輪場の整備を想定。

建物規模

- ・病院は基本構想で算出した**47,925㎡**程度、看護学院は既存と同規模の**1,273㎡**程度、合計**49,198㎡**程度を想定。
- ・今後、設計と条件の詳細決定等の段階でより詳細な検討を行い確定。

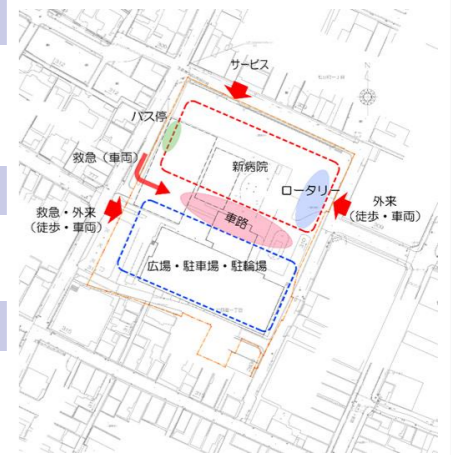
構造計画・設備計画・環境負荷低減への配慮

- ・免震構造、トリアージや治療のスペース確保、井水利用等ライフライン確保、Z E B O r i e n t e d の充足、再生可能エネルギーを最大限活用検討 等

整備手法及び整備スケジュール

- ・従来方式、実施設計からのDB方式、E C I方式のいずれかが望ましいと考えられるが、今後の社会情勢等を注視し、最終的な発注方式を決定。
- ・整備スケジュールは下表を想定。

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9～12年度	令和13年度～
基本計画	設計と条件詳細検討、整備手法検討等	基本設計	実施設計、施工業者選定等	解体工事、建築工事	新病院開院、旧病院解体、外構工事等	



医療機器整備計画・医療情報システム整備計画

医療機器整備計画

移設容易な機器は整備時期を開院前後にずらすなど費用平準化を図り、特性に応じ最適な調達方法を検討する。

医療情報システム整備計画

医療安全への寄与、D X 推進による職員の業務効率化、ランサムウェア等への適切な対策等を検討し整備する。

事業収支計画

概算事業費

建設単価の高騰、除却費・駐車場整備費等新たな費用の計上等により、総事業費を約**490億円**と算出。
財源は、現段階では主に企業債を想定するが、事業費縮減の検討とともに、補助金等の活用について検討する。